

東山の森だより

【第9号】

発行：なごや東山の
森づくりの会
発行者：滝川正子
編集：中西たかお
発行月：2008年6月
(年2回発行)

§ § 暮らしの森に祭りばやしが響く § §

なごや東山の森づくりの会 副代表 滝田 久憲

この東山の森だよりが発行される頃には、名古屋市で生物多様性に関するCOP10が開催されることが本決まりとなり、それに向けて何らかの動きが始まっているのかも知れません。

生物多様性と言えば、必ず引き合いに出されるのが里地里山（以下、里やまと記す）です。日本で稲作が始まって以来、戦後の一時期まで日本の平地のほとんどが里やまであったと言っても過言ではありません。こうした里やまでは、水田、畑、雑木林、ため池、小川などという様々な自然環境があることから、多様な生き物の生息環境が確保されていました。しかし、こうした環境はそこに暮らす人々が自らの生活のために作り上げたもので、動植物のために作ったものではありません。従って、そこで生息している動植物は、そうした環境に適合して生き残ったものですが、現在、各地の里やまで起きているように、里やまの仕組みが維持できなくなった場合には、必然的にその存続が危うくなる宿命にあると言えます。



里やまを人の暮らしの場と考えた場合、その特徴は自然の仕組みを利用した循環的な生産方式をとっていること、一人では弱い力を人と人がつなげる仕組みを作って自然と対峙してきたなどがあります。このように、かつての里やまにはモノとヒトを再生産する仕組みがありましたが、戦後のある時期からこうした里やまの役割が果たせなくなってきました。こうした中、平和公園の暮らしの森エリアでは、東山動植物園の再生に合わせて2010年に向け、里やまの景観が再生されようとしています。現時点では、造園的な手法

で計画が進んでいて、生産の主役たる都市生活者の関わり方などのイメージが浮かんできません。しかし、環境問題、教育問題など様々な問題の山積する中、都市の中で里やまを再生し、里やまが持つヒトとモノの再生産力に着目し、それを生かすことができれば持続可能な社会へのひとつの道筋ができるのでは、と思われま

す。ところで、私の実家は祭りの盛んなところで、子供の頃、祭りのシーズンが近づくと、よく心を躍らせたものです。名古屋に来て、ある先生との出会いから始めた写真で農山村を訪れるようになり、各地に残る伝統的な祭りにも触れる機会を得るようになりました。神楽舞などを見ながら、鎮守の森に響き渡る笛や太鼓の祭りばやしを聞いているとついつい時間の経つのを忘れてしまいます。人の集まるところ、文化ができます。人は自然の前では微力なことから、自然(神)に願い、敬い、感謝し、自らの横暴さを律してきました。平和公園では、どんな文化が生まれるのでしょうか。



暮らしの森に響き渡る祭りばやしを一度聞いてみたいと思っています。

協働：なごや東山の森づくりの会 名古屋市 (財)名古屋市みどりの協会

棲息生物調査・ため池調査 報告会

日時：2月23日(土) 13:15～16:30 会場：名古屋都市センター11F・大研修室

第1部 名古屋の棲息生物調査2007 報告会

第2部 名古屋・東山新池ため池調査2007 報告会

1部、2部ともに調査の全容、具体的な調査活動の内容、集積されたデータ等について、それぞれに纏められた報告書に基づき詳細に報告されました。また、第2部のため池調査報告書の中には、「新池の生物多様性の回復とその未来像を求めて」と題する提言が纏められており、これの討議が行われました。

3月26日(水)15時より、実行委員会のメンバーが市役所本庁舎を訪問し、副市長室にて山田副市長、関係各局の幹部クラスが集まる中で、上記提言書の説明を行い、提出し、受理されました。これがどのように扱われるかについては明言されませんでした。



平成20年度総会

日時：5月24日(土) 18:30～20:50 会場：なごやボランティア・NPOセンター

確定会員数：125名 ・出席33名 ・委任状73名 計106名

会則第9条会員の3分の1以上の規定を満たして総会成立。

開会に当って滝川代表、市緑政土木局緑化推進課小池課長の挨拶、COP10誘致が確実視される中で森づくりの会としてどのように関わっていくのかが中心的話題になりました。その後森づくり憲章の確認朗読などオープニングセレモニーがあって、議長選出。議長に選出された滝川代表により議事進行。1号議案から5号議案まで役員人事も含めて順次審議、承認され無事閉会。休憩を挟んでの自由討議では、市緑政土木局緑地施設課主査の小幡俊一氏より「くらしの森・活動交流センター計画」についてと題して講演があり、その内容に関わる質疑応答、各種提案が行われました。



COP10 名古屋開催決定

CBD・COP10[生物多様性条約・第10回締約国会議]の開催が名古屋に決まりました。

5月30日 ドイツのボンで開かれていたCOP9で正式決定されました。名古屋市が国や県と進めてきた誘致活動の結果、2010年10月11日から29日まで名古屋で開催されることになりました。ただ、これは日本が議長国となる国際会議ですので名古屋市が主導権をとれるものではありません。そんな中で、東山の森が盛んにアピールされておりますが、森づくりの会としてどんな形で関わっていくのか、会としての考え

方を確立しておくことが望めます。

☆CBD：Convention on Biological Diversity (生物多様性条約) 1992年、ブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開催された「地球サミット」と呼ばれている国連環境開発会議で採択された条約。正式名称は「生物の多様性に関する条約」。現在190の国と地域が参加。

☆COP：Conference Of the Parties (締約国会議)

活動交流センター(仮称)検討会立ち上げ

名古屋市がくらしの森構想の中で活動交流センターと称しているものに対して、単なるビジターセンター的なものでは将来に禍根を残すことになるとの思いから、生物多様性の回復維持、温暖化抑止などを念頭において、情報の収集蓄積、発信、交流など、将来へ向けての市民の多面的な活動を支える場としてのセンター構想をつくり上げ、提言していくことを目指して、5月16日検討会が立ち上げられました。参加希望・問い合わせは滝川代表へ。



定例会

□ 1月6日(日) 10:00～14:30 天候：晴れ

場所：東山公園南部・天白溪湿地とその周辺

参加者：40名(内、子ども5名、一般参加3名)

内容：正月早々の定例活動、去年は雪降りでしたが、本日は穏やかな好天に恵まれました。年初に当たり滝川代表から今年も課題山積、皆さんのご協力が期待されますとの挨拶があって、作業開始。湿地内の除草、周辺の笹刈り、倒木整理などが精力的に行われました。また、子ども森づくり隊のメンバーは天白溪から人間地獄へ到る散策路の整備に汗を流しました。



□ 2月3日(日) 10:00～12:30 天候：雨

場所：平和公園南部・東邦高校裏マダケ林

参加者：16名(内、子ども3名)

*子ども森づくり隊隊員 T. S君が表彰されました。

内容：里山の家集合し東邦高校裏のマダケ林に徒歩で到着。1年ぶりの作業の為若竹が成長し、作業はこれの除伐と子ども森づくり隊イベントで使用する竹ぽっくり用材料の調達でした。谷底はフユイチゴの群落で小鳥たちの楽園?でした。



□ 3月2日(日) 10:00～14:30 天候：晴れ

場所：東山公園南部・天白溪湿地とその周辺

参加者：30名(内、子ども3名)

*子ども森づくり隊隊員 T. Mさんが表彰されました。

内容：この日も快晴、初参加の会員もあって和やかな雰囲気作業開始。湿地内の除草、周辺の笹刈り、倒木整理など前回に続いての作業と天白溪への入り口通路の整備。



□ 4月6日(日) 10:00～14:15 天候：晴れ

場所：平和公園南部・中道沿い竹やぶ

参加者：45名(内、子ども5名)

内容：新規加入2名、東山公園協会から3名の参加が有って賑やかな雰囲気の中、くらしの森中道沿いの竹やぶ化してしまった雑木林で進入した竹の除伐、混み合っている中低木の間伐。コバノミツバツツジの花が満開でした。



□ 5月4日(日) 10:00～14:30 天候：晴れ

場所：東山公園南部・一粒荘跡地周辺

参加者：43名(内、子ども5名)

内容：今回も東山公園協会から4名の参加がありました。作業は、老朽化した集積柵の修理補強、今年芽を出した若竹や雑草の刈り取り、倒木整理。また、一粒荘跡地北側に進出した竹を皆伐しました。読売新聞社より取材がありました。



□ 6月1日(日) 10:00～14:30 天候：晴れ

場所：平和公園南部・中道沿い竹やぶ

参加者：78名(内、子ども6名)

*子ども森づくり隊隊員 T. R君が表彰されました。

内容：企業会員の社員さん32名、東山公園協会から2名、午後には、虫の観察会からの合流16名など総勢90名を超える参加者の働きで、雑木林に侵入した竹の皆伐が捗りました。平和公園初の「シロマダラ」へびが捕獲されました。



子ども東山の森づくり隊

＝なごや環境大学「共育講座」として実施＝

■2月9日(土) 10:00～12:25 天候：雪

場 所：平和公園南部 「めざせ！竹きり名人」

参加者：隊員 22名（保護者等同伴者16名）

天気予報では昼前に雪。ところが、スタートをするころにはもう雪がちらほら。受付を済ませた子どもたちの中には、おたまじゃくし池に張った氷を取ってくる子も。雪が激しさを増す中、竹きり作業。凍えた体に豚汁とたき火がありがたい。見る間に降り積もる雪。竹に積もった雪を落したり、雪玉をつくって遊ぶ子どもたち。イベントは、お昼で終了したが、希望者は竹ポックリまでつくって帰ることができた。(浜)



■5月10日(土) 10:00～12:15 天候：雨


場 所：東山公園南部 「冒険ハイキング！」

参加者：隊員 39名（保護者等同伴者26名）

子ども森づくり隊としては東山南部でのイベントは初めてのため、事前に何度も下見をし、コースの選択、活動内容など準備をしてきましたが、受付が始まる頃から雨になり、コース変更。しかし、この雨にもかかわらず隊員と同伴者で65名という多くの参加があり、元気に出発。カッパを着、傘をさして森の中へ。雨の森を歩くのも楽しいとの声あり。




班活動紹介

☆平和公園里山班 

毎月 第2、第4日曜日 活動エリア：平和公園南部

春の菜の花畑を夏のヒマワリ畑への転換作業。ドングリ畑の予定地に繁茂した雑草の刈り取り。ハンノキ湿地下手の斜面での笹刈りなど、くらしの森の景観維持作業に汗を流しています。ヒマワリ畑の耕耘作業や種の入手などでは、東山総合公園管理課の協力があって作業が捗っています。




☆東山南部里山班 

毎月 第4土曜日 活動エリア：東山公園南部

苗場(名古屋高速換気塔の南西側)、東山テニスセンター南部の天白溪、藤巻町名古屋高速道トンネル上の更地に植樹されたエリア内などでの除草、倒木整理、間伐などの作業を行っています。5月は藤巻町地内でアベマキ、コナラの植樹をしました。一緒に汗を流す人を募集しています。



☆ハンノキくらぶ 

毎月 第3木曜日 活動エリア：平和公園南部の竹林

女性が中心になって活動しているクラブですが、男性の参加を歓迎しています。普段はくらしの森で第2木道南側のスズコナリヒラ、中道沿いのトウチク林などの整備をしています。5月は桜の園南側、ハンノキ湿地への入り口西側のやぶ化したハチク林で整備作業をしました。先般行われた、くらしの森での竹林マップづくりで確認された、多種多様な竹林を美しく活かしていきたい思いを込めての作業です。



広報班立ち上げ

2月に広報班を立ち上げました。

2月5日(火) 18:30～ 里山の家で立ち上げ準備会が召集され、班の目的、内容などが議論され、役割分担として **班長：水谷泰道さん 記録：坂野静雄さん** が選任されました。

また、定例会を**毎月第2水曜日**とし、必要に応じて会合を召集するなどが決められました。



広報班 班長 水谷 泰通

広報の目的は自然(森)との関わりがどんなに大切かを訴えると同時に、「なごや東山の森づくりの会」では、いったいどんな人達が、何時、どんな活動を展開しているのかを会の内・外の人達にお知らせすることにあります。本来この種の会の活動は決して喧伝するものではなく、「ありよう」をそのまま知ってもらい、ベースになっている考えを理解してもらうことが大切です。多くの方が会の存在を知り、その活動に共感し、できれば会に入ってメンバーと共に活動したいと思うようになればしめたものです。「東山の森だより」はそれを目的とした広報誌です。他に、いろいろ工夫された会のホームページも開いています。活動に即したリーフレットも都度作成配布してきています。この上何をやるの？もっと沢山の人に見てもらえるような工夫も必要でしょう。たとえば、カラー刷りにしたり、動く映像などで活動を報告するのもいいと思います。それとは別に、大変地味ですが、活動の都度その目的、効果を掲示して一般の人の理解を得るような努力も意外に大切です。また、中からの見方ばかりでなく、会の外からの意見を聞く必要もありそうです。



いろいろなアイデアを求めています。一緒にやろう！ 考えよう！ という方を歓迎します。

東山新池ため池追跡調査

4月29日(火、祝) 9:00～17:00 集合：里山の家

昨年の「名古屋・東山新池ため池調査2007」の継続調査として池干しはしませんでした。棲息生物の追跡調査を実施。カメ類、メダカ、水生植物、水生昆虫、ブルーギルなど外来魚、トンボ、スイレン、水質等々の調査が精力的に行われました。



踊り子三姉妹

友野 啓康

「昔むかし、山奥の小さな村に紫蘇(しそ)一族が住んでいました。この一族の長(おき)の家には三人の可愛い娘たちがいました。この娘たちは踊りが上手で、村祭りでは三人が深い折り編み笠をかぶって踊る様子は村人を魅了し、いつしか「踊り子三姉妹」と呼ばれる様になりました。長女の名前は「仏座」、二女は「姫踊子」、三女は「踊子」といいます。…という昔話があったかどうか定かではありませんが…

春何処でも見られるシソ科オドリコソウ属の「ホトケノザ」、ヒメオドリコソウと「オドリコソウ」を筆者は「踊り子三姉妹」と呼んでいます。



名前の由来は、花びらが、深い折編み笠に似ていることからこのこと、「伊豆の踊り子」の踊り子がこの折り編み笠を持っていたかどうかは分かりませんが、ただこの小説の元となった川端康成の伊豆の旅で、修善寺湯川橋で出会ったのは、3人の娘旅芸人だったと言われています。

それにしても、折編み笠を被った女性が着物姿で優雅に踊る姿は、「越中おわら風の盆」を見ているような、美しさ、優雅さがあります。何故なのでしょうね。



森の表情



中西 たかお

410haの広さを持つ東山の森。中でもお気に入り、その最南端に位置する「天白溪湿地」。四季折々様々な表情を見せてくれるが、特に春に向かって草花や虫たちが動き出す3月から、枯れ木のようなであった樹木の枝先から新芽が芽吹きだす4月、そして新緑が眩しく盛りあがる5月。この頃森に入るときは正



に～こころわくわく～。湿地周辺では、スマレ、ミツバツツジ、ガマズミ、ネジキなどの花が次々と咲き誇り、湿地の中では、セリやミツバが顔を出し、水面ではアメンボがスイスイ。モンシロチョウ、アゲハチョウ、シオカラトンボ、ギンヤンマ、、次から次へと生き物たちが動き出す。耳を澄ませば野鳥のさえずり。名古屋という大都会の中に残された「なごや東山の森」という緑地は、生物多様性
の見本園。気がかりなのは、湿地が水枯れ状態であること。1年中水を湛えた水辺の風景をなんとか再現したいものである。

運営委員会

開催日時：毎月第3木曜日 18:30～20:55 場所：千種スポーツセンター第一会議室

会議参加者：役員、運営委員、名古屋市、(財)名古屋市みどりの協会、その他議題関係者など。

今年度の総会で役員の入替えがありました。

議題：森づくり定例会、班活動、主催事業などの企画と結果報告。各種協賛事業、受託事業の実施計画と結果報告。各種団体のフィールド訪問などの受け入れの検討。里山の家の管理運営に係わる事案の協議。くらしの森再生構想、COP10への対応など懸案多く、活発な議論がなされています。◎運営委員会は、会員のみなさんの自由な発言の場です。みなさんの森づくりへの思いを伝える場として、積極的に参加してください。



今後の活動予定

☆定例会：毎月第1日曜日

7月6日	東山公園南部	9月7日	東山公園南部	11月2日	東山公園南部
8月3日	平和公園南部	10月5日	平和公園南部	12月7日	平和公園南部

集合場所、時間など詳細につきましては、その都度事前にメールなどで連絡致します。下記ホームページでも案内しており、みなさんの積極的な参加をお待ちしています。

☆子ども東山の森づくり隊

8月 2日 (土)	18:00～20:30	「冒険ナイトハイキング」	平和公園南部
11月 8日 (土)	10:00～14:30	「竹とあそぼう」	平和公園南部

紹介

☆ホームページをご利用ください！！

当会の活動を紹介するホームページです。

定例活動の様子、子ども森づくり隊の案内、結果の報告、班活動や各種イベントの紹介、森の中で観察された花や鳥の紹介などなど内容豊富です。是非アクセスしてみてください。

URL：<http://www.higashiyama-mori.sakura.ne.jp/>



《 会員数：6月10日現在 131名 個人129名 企業2社 》

人と自然のいのち輝く森

「東山の森づくり」に参加しませんか！！

年会費：2,000円（企業：10,000円/1口以上）

入会申込・問合せ：〔連絡幹事〕鬼頭 保

Tel/Fax:052-751-9510

e-mail: kito022445@mediacat.ne.jp

編集後記

希少生物の保護・保全、生物多様性という言葉が脚光を浴びているが、多様な生物を育む森や水辺が希少になっている。緑地や水辺の風景を取り戻すことが先決である。

投稿歓迎⇒ 中西たかお Tel/Fax:052-781-7530
e-mail: ntakao33@titan.ocn.ne.jp